

神田伊織の会通信 No. 7

編集発行：(広報担当) 高木 登

第7回 阿佐ヶ谷ワークショップ 2023年度第3回「神田伊織の会」講談会

開催日：2023年11月19日(日)14時開演

場 所：阿佐ヶ谷ワークショップ

演 目：第一席 グリム童話『赤ずきん』

第二席 狩野探幽遠見の山

第三席 魚屋本多

演目の情報提供は、高野士郎さんの「ネタ帳」からです。

この場を借りてお礼申し上げます。

参加者：17名(懇親会参加者：16名)

第一席：グリム童話『赤ずきん』

伊織さんの最近の超多忙な活動状況の報告をマクラにして、青山学院大学で留学生を対象にした講談の講演について語られ、その紹介がてらに5分間ほど『赤ずきん』が語られた。

留学生にも分かるようにと一般によく知られた話だけに、留学生にもよく理解できて楽しめたようである。

話の内容はここで繰り返すまでもないが、赤ずきんちゃんが狼にまさに食べられようとしたところで、この結末がどうなることかというところで終り、次回へと続くと締め括られた。

第二席：狩野探幽遠見の山—大津屋の屏風絵—

江戸時代初期の絵師狩野探幽が藤兵衛と名乗っていた頃の少年時代のエピソード。京都から東海道を乞食坊主のような恰好で旅している時、大津の宿で女中の客引きで泊まろうとする。余りの薄汚い姿を見た宿の亭主と兵衛は断ろうとするが、藤兵衛が宿賃百文に加えて茶代に百文を添えて出したところ、兵衛は手のひらを返したようにもてなす。その二百文は実は有り金全部であったが、藤兵衛はそんなことに気もかけない。

隣の部屋の見事な金屏風を見た藤兵衛は、その屏風に絵を描かせてほしいと頼むが、兵衛は地元の絵師鳳山に描いてもらうことになっていると断る。しかし、藤兵衛は夜中に目を覚まし、その金屏風に山水画を描く。描き終えたところに筆の墨が屏風の上にぽたりと落ち、あわてて着物の袖に水を含ませて拭き取ろうとするが、墨はますます広がるばかり。思いあぐねた藤兵衛は逆にその墨を袖で薄く引き伸ばしてみると、思いもかけず遠景に霞む山々に見えたことから、それで見落着くと、夜明け前に宿を抜け出す。

驚いたのは兵衛。30両もかけた金屏風が台無しにされると、約束の日に絵を描かなかった鳳山を逆に責め立てるが、鳳山は遠景に霞む山々の絵を見て、ただただ驚嘆するばかりで、35両で買い取ろうと言うと、兵衛はその絵の価値も分からぬまま、鳳山のほめたたえる「遠見の山」として喧伝してまわり、いつしか諸国に知られ、大津屋は大繁盛となる。

一方、藤兵衛は江戸に出て絵師として出世し、若干15歳にして幕府のお抱え絵師となって、名

前も狩野探幽守信と名乗るようになり、36歳の時に弟子を引き連れて京都に錦を飾る旅の途中、大津屋の宿に泊まる。宿の亭主与兵衛は当然のことながら挨拶をされても誰だか分からないが、探幽はかつての乞食坊主だと正体を明かし、金屏風の絵を完成させたいと言って、その絵に狩野探幽と落款を入れ、大津屋はますます繁盛したという。

第三席：魚屋本多一「水呑み」に由来する出生の秘話一

藤枝・田中城の城主、本多隼人正正矩（はやとのしょう・まさのり）は、酒を飲むと借りてきた猫のようにおとなしいことから「猫本多」と呼ばれていたが、あるとき麴町の上屋敷での酒宴で酒を飲んでいる時、窓下で魚屋が酒を飲んでいる水呑みに書かれている文字を見て、その魚屋を呼び入れ、彼の名前と家族のことを聞いた上で、水呑みのいわれを尋ねる。魚屋の名前は宗太郎といい、妻と息子が一人いて、息子の名前は宗助という。

宗太郎は、自分の祖父が小牧の戦いの際に徳川軍の落ち武者を匿ってもてなした折り、落ち武者はその家の娘に手をかけ、翌朝去る時に、もし万が一にも子供が生まれた時にはこの水呑みを証拠に尋ねてくるようにと言い残して去って言ったという。その娘というのが自分の母親で、母親が亡くなる前にそのことを打ち明けられ、江戸に出て武士と出会うたびにその水呑みを見せびらかして自分の父親を捜したが徒労に帰したことを語る。

隼人正はこの落ち武者こそ若かりし頃の自分であったと明かした上、身分がら宗太郎を実子と認めるわけにはいかないと、代わりに二百石を与え、宗太郎の息子宗助も二十歳になったら分家させ、同じく二百石を与え、名前も本多を名乗るようになり、宗太郎が魚屋であったことから、鯛二匹を逆さにした姿を家紋にし、徳川幕府の終わりまで栄えたという。

● 懇親会

いつものメンバーに加えて新たに、理事長の佐竹さんの紹介で参加された方や、伊織さんのご紹介で参加された方3名の方も加わって、参加者17名の内、16名が参加され盛況な懇親会となった。なかでも河上慶子さんの活動・活躍ぶりのお話が注目された。

● 会計担当（副会長）の藤丸健一さんからの報告事項

(1) 会計報告

木戸銭：17名×1500円＝25,500円

本日の講演料として神田伊織さんに高木よりお渡ししました。

(2) 阿佐ヶ谷神田伊織の会、新会員2名

本日参加された、河上慶子さんと新井孝典さんが新たに後援会の新会員となりました。

● 伊織さんの今後の予定—当日配布されたチラシより

(1) 11月25日（土）10時開演、なかの芸能小劇場にて、ネタおろし講談会、木戸銭：2100円

(2) 11月29日（水）19時より、池袋のカフェ・バー木星劇場にて『池袋夜間飛行』

神田伊織・東家三可子、テーマ「さよならだけが人生だ」、一般料金：2500円

(3) 12月6日（水）13時30分より、神田香織一門会、なかの芸能小劇場

伊織さんの演目は「樋口一葉」、木戸銭：3000円

以上